

大野市休日急患診療所 撮影画像評価

2019年度 大野市休日急患診療所における年間撮影内訳 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	撮影人数	胸部	腹部	頭部	脊椎	骨盤	四肢関節	その他	総件数
内科・小児科	102	88	30	12	33	9	219	11	402
外科	276								
合計	378								

評価フィルム内訳 43人(48件) 期間 2019年6月1日～2019年7月31日

	撮影人数	胸部	腹部	頭部	脊椎	骨盤	四肢関節	その他	総件数
内科・小児科	10	7	3	0	0	0	0	0	10
外科	33	2	2	0	6	0	28	0	38

表1 撮影フィルム評価分類(対象件数:48件 全110枚)

評価	A	B	C	D
読影	支障なし	ほぼ支障なし	支障あり	問題あり
診療	支障なし	支障なし	やや支障あり	支障あり
再撮	必要なし	必要なし	出来れば再撮	再撮
該当件数	39	7	2	0

※複数評価あり

表2 評価BCDの内容

	機器	手技	条件	処理
コードNO.	NO. 100代	NO. 200代	NO. 300代	NO. 400代
該当件数	0	7	1	1

※ 機器:自現機以外の機器調整不備 手技:不適切な撮影手技 条件:不適切な撮影条件
処理:階調の問題 取扱:不適切なフィルムの取り扱い

表3 内容詳細(重複あり)

101センターズレ				
102X線斜入				
103IP管理				
201ポジション不備				
202肺野欠け				
203肺尖欠け				
204横隔膜欠け				
205恥骨欠け				
210入射点不適				
221絞り不足				
230体動あり		1		
231呼吸ブレ				
242リス忘れ				
250着衣金具有				
252プロック位置不備				
253マーカ不適		1		
255マーカなし		5		
301S値不適			1	
402階調不良				1
Bの内訳	0	6	0	1
Cの内訳	0	1	1	0
Dの内訳	0	0	0	0

結果

前年度に比べ、総撮影患者数は407名から378名に、総撮影件数は471件から402件へと減少した。

表1より 評価A39件、評価B7件、評価C2件であった。診断に支障をきたすような画像は2件であった。

表2より 評価Bの内訳として、手技によるもの6件、処理によるもの1件であった。

評価Cは手技によるもの1件、条件によるもの1件であった。

表3より マーカーなしの画像が一番多かった。

考察

前年度と比べると少し減少したが、今年度もマーカーなしの写真が目立った。

今年度も同一出務者によるものが多かったため、日常業務から心掛けるようにしていただきたい。

診断に支障を来すレベルでは無いが、S値:1000を筆頭にばらつきが目立っているので調整が必要と考える。

図1 撮影フィルム評価分類

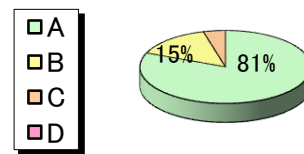


図2 BCDの内容・内訳

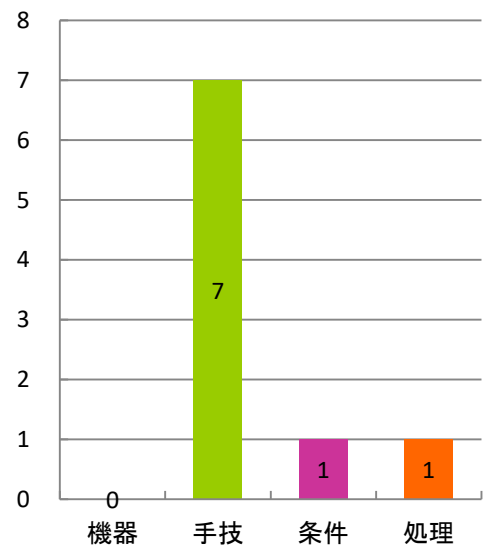


図3 内容詳細

